



やさしい手のひら



いしおかブロック保育研究委員会

一部抜粋

…

今回は「言葉」についてです。言葉は人とつながる為であり、一人では豊かな言葉は育ちません。第3号で取り上げた身近な「環境」の中で、子どもは楽しい、嬉しい、驚いたなど、自分で感じた事を親しい人に話したいと思うようになります。その時の大人の関わり方で更に言葉を豊かにする事が出来ます。親が出来る事について一緒に考えていきましょう。

最後まで聞いてみよう！

日常生活をする中で子どもが「トイレ」と言えば『あ、トイレにいきたいのか』、「水」と言えば『水が欲しいのか』とつい汲み取ってしまうことはありませんか？生活をする中で単語だけでは伝わらないことも多くあります。最後まで子どもの思いを聞くことで、自分の気持ちや考えを伝える練習となります。



いろいろな言葉がある事を伝えよう！

生活の中で子どもはいろいろな言葉の使い方を知り、おぼえます。

例 え

雨が降っているときに、ただ「雨が降ってるね」と言うだけでなく、大雨の時であれば「今日は土砂降りだね」小雨であれば「雨がしとしと降ってるね」… 雨の降り方を表す言葉を一言加えると様子を詳しく伝えられます。そのような表現に出会うと子どもは「雨が降る」だけでなく、いろいろな言葉がある事を知り言葉を豊かにします。

気持ちに寄り添おう！



子どもの気持ちに寄り添うことがとても大切です。

会話をする中で、楽しかった事を「楽しかったよね」と共感して貰えると、喜びも2倍になりますよね。悲しい時には気持ちを理解してもらえると、心が少し軽くなります。相手に寄り添ってもらおう事で、もっとたくさん話を聞いてもらいたい！伝えたい！と思う気持ちを育む事ができます。

小学生になるまでに こんなことできたらいいな…

- ・左右の区別ができる。
- ・自分の名前、お父さん、お母さんの名前が言える。
- ・自分の名前が書ける。
- ・時間を意識して行動する事がきる。



同じ世界を見る

人は完璧である必要はありません。お母さんだって失敗するし、欠点だってあります。

母と子が肩を並べて同じものを見ている関係っていいですね。正面から向き合うだけが母子ではないのです。

同じ視線にたって子どもの世界を見てみませんか？